クォータリーレポート（６月・９月・12 月・３月の年４回発行）

気仙沼・南三陸だより

第 18 号　平成 28 年９月
発行：気仙沼地方振興事務所

気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業や催事などを四半期ごとに紹介します。

◆◇　主な内容　◇◆

〇気仙沼高等技術専門校：平成 28 年度第１回オープンキャンパスを開催しました
〇気仙沼保健福祉事務所：第２回気仙沼圏域介護人材確保協議会が開催されました
〇水産技術総合センター気仙沼試験場：気仙沼水産試験場の竣工式を開催しました　他
〇本吉農業改良普及センター：「ひころの里」リニューアルオープン＆ひころマルシェ開催　他
〇気仙沼地方振興事務所：ツキノワグマに注意しましょう！／南三陸町卸売市場が竣工しました　他

平成28年度第１回オープンキャンパスを開催しました（気仙沼高等技術専門校）

６月 19 日，当校において今年度第１回オープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは，高校生や一般の方々を対象に，身近に技術を学べて就職に有利な資格が取得できる公共の職業訓練校としての PR を目的に，毎年開催しているものです。

当日は 55 人の来校があり，自動車整備科，オフィスビジネス科，溶接科の概要について説明を行いました。

また，自動車整備科では，学生自らが企画して準備をした運転シミュレーションやエンジンの組立などを，オフィスビジネス科ではパソコンを使用してのメッセージカードの作成を，溶接科では電気溶接機を使用した溶接などを，それぞれ体験していただきました。

（自動車整備科（分解組立体験））

これらのほか，気仙沼管内では初めてとなる，県が所有する FCV（燃料電池自動車）「トヨタ MIRAI」の展示と同乗体験を実施し，最先端の自動車技術の PR も行いました。

第２回オープンキャンパスは，11 月６日（日）に開催する予定です。皆さまの来校をお待ちしています。

（オフィスビジネス科（メッセージカード作成））

（溶接科（アーク溶接体験））

（燃料電池自動車（展示説明，同乗体験））

第2回気仙沼圏域介護人材確保協議会が開催されました
（気仙沼保健福祉事務所）

7 月 7 日，当事務所において，気仙沼圏域介護人材確保協議会が開催されました。

この協議会は介護人材不足が深刻な当圏域において，官民一体となって介護人材の確保に取り組むため，今年１月に設立されたものです。

第2回目の開催となった今回は，構成員である介護施設管理者の方々，ハローワーク，気仙沼市，南三陸町，当事務所などの関係者により，新規就労者の確保や離職防止の対策について協議しました。

（協議会の様子）

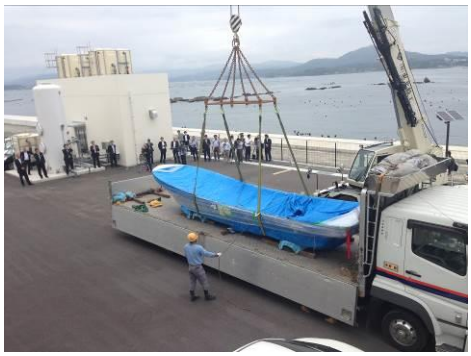
今回の協議会では，参加者の方々からどのような取組を行っているか報告があった後，人材確保に向け，実務者レベルによるワーキンググループを組織したうえで，その手法を検討し，人材確保に取り組んでいくこととなりました。

気仙沼水産試験場の竣工式を開催しました
（水産技術総合センター気仙沼水産試験場）

当場新庁舎が気仙沼市波路上漁港に完成し，６月８日に竣工式を開催しました。当日は水産庁や復興庁をはじめ，地元市町，漁業協同組合など関係者の方々に多数ご臨席いただき，テープカットを行いました。再建までお世話になりました皆様に，厚く御礼申し上げます。新試験場はオープンラボも併設しており，地域の水産業発展に貢献してまいります。

また，上記式典当日には，震災の津波によって流出し行方不明になっていた当場の調査船「海翔」が5年3ヶ月ぶりに帰還し，竣工式に花を添えました。「海翔」は平成 28 年5月 12 日に沖縄県宮古島市上野宮国の沖合約6キロの海上で転覆・漂流しているところを地元の釣り船に発見され，第11管区海上保安部宮古島海上保安署と宮古島市によって曳航・陸揚げされたものです。今後は震災の遺産及び海洋循環に関する学習教材として活用する予定です。

（竣工式（テープカット）の様子）



（5年3ヶ月間の漂流の後，帰ってきた調査船「海翔」）

「あまころ牡蠣」の出荷が行われました
（水産技術総合センター気仙沼水産試験場）

「あまころ牡蠣」は，牡蠣養殖業を復興するために志津川湾で生産試験中の天然由来未産卵一粒牡蠣で，産卵前に栄養をたっぷり蓄えた初夏がベストシーズンです。

今シーズンは，天然採苗の成功と養殖技術向上によって，２万個を超える大量生産に成功し，６月から全国のオイスターバーに向けて出荷が行われました。世界中の著名なカキを知る専門家から，「従来のマガキと比較し，余分な臭みがなく味が濃い。さっぱりしているがコクがあり，そのコクは何らかのエグ味によるものでなく中性的なコク。女性好みの食べやすさ。」，「全国のトップクラスのカキと比べて遜色ない。」，「昨シーズンより数段技術が向上した。」と高い評価をいただきました。また，全国販売直前に開催された試食会では，たくさんのお客様から「甘みが凝縮されていておいしい。」といった感想をいただき，その様子は多数のメディアに取り上げられました。

現在，来年出荷する「あまころ牡蠣」の採苗が始まっています。今シーズンの高い評価を受けて，10 万個生産を目標に生産者の努力が始まったところです。

（東京のオイスターバーで陳列された「あまころ牡蠣」）

（試食会とメディア取材の様子）

「ひころの里」リニューアルオープン＆ひころマルシェ開催
（本吉農業改良普及センター）

5月 22 日，南三陸町入谷地区の里文化が体験できる施設「ひころの里」が，「自然とともに生きる知恵　孫の孫まで伝えたい」と，リニューアルオープンを迎えました。

町の有形文化財「松笠屋敷」母屋で営業している食事処「ばっかり茶屋」では，地域のお母さんたちが手作りした旬の味覚たっぷりの郷土料理を楽しめます(火曜定休)。また，入谷のグリーン・ツーリズムインストラクターの方たちが提供する各種体験も用意されており(要予約)，この日もオープニング企画として，野草を摘み，その場で草餅にする「野草つみ散歩」が実施されました。

また，ひころの里の野外会場では，この日に合わせて，地元の農産物や町内外のお母さんたちが手作りした雑貨を販売したり，藍染めなどの体験が楽しめるイベント「ひころマルシェ」も同時開催されました。「おいしい，楽しい，すこやかなくらしを，この土地で」というテーマのとおり，地域の良い所を存分に体現した出店者たちが，町内や近隣市町村から集まりました。来場者の皆さんは，芝生にシートを広げてくつろいだり，体験ブースや販売ブースを巡ったり，思い思いにマルシェを楽しんでいました。

当センターでは，今後も農山漁村ならではの特性を活かした地域づくりを支援していきます。

（松笠屋敷）

（ひころの里入り口）

（ひころの里野外会場）

地域食材親子クッキング教室を開催しました
（本吉農業改良普及センター）

6月14日，南三陸町子育て支援センターで，支援センター主催「親子クッキング教室」が開催されました。

南三陸町入谷地区で今年から豆腐加工を始めた「まめ菜工房」の佐藤とし子氏を講師に迎え，おからを使った料理3品を参加した町内の親子10組約20名と調理しました。

食材はできるだけ地域の食材を利用し，おからは「まめ菜工房」のものを使用しました。

参加者は，「おからを卵の花以外に使うなんて初めて」という方も多く，サラダやハンバーグ，スコーンにおからを使うことを楽しんでいました。

調理後は，参加者全員で出来上がった料理をいただきました。「子供がパクパク食べる。おうちでもぜひ作ってみたい」「今晩さっそく作ってみます」などの声が挙がっていました。また，「まめ菜工房」の存在を知らない方も多く，販売場所や営業時間を尋ねる方もいました。

当センターでは，今後も関係機関と連携し，地産地消や農産加工に取り組む事業者を支援していきます。

※「まめ菜工房」は，南三陸町入谷地区で大豆とそら豆等の生産に取り組む女性農業者グループ「ビーンズくらぶ」の加工部の名称です。

（ハンバーグを作る様子）

（スコーンを作る様子）

JA南三陸果樹生産部会の現地検討会が開催されました！
（本吉農業改良普及センター）

7月7日，JA 南三陸果樹生産部会主催による現地検討会が開催されました。

部会員からは 15 名の参加があり，南三陸町入谷の「りんご」と「なし」の園地を会場に開催されました。今年の気仙沼・南三陸地域の果樹は順調に生育し，今のところ目立った病害虫の発生も見られません。検討会では，これから重要な防除時期となるシンクイムシ類の対策を中心に検討を行いました。シンクイムシ類は，その幼虫が果実を加害することで，大きな被害になります。当センターでは，シンクイムシ類の発生消長（発生数増減の傾向）を確認するために設置していたフェロモントラップを参加者に観察していただきました。実物を初めて見る生産者が多く，生態や具体的な防除方法などについて多くの質問がありました。

その後，童子下公民館四季の里に移動し，当センターから今後の病害虫防除や栽培管理のポイントについて説明し，参加者と意見交換を行いました。

（現地検討会の様子）

（フェロモントラップ）

当センターでは，今後も「りんご」や「なし」だけでなく，果樹全般の安定生産・栽培技術向上を支援していきます。

祝！「シーサイドファーム波路上株式会社」設立
（本吉農業改良普及センター）

気仙沼市階上地区での営農開始を計画している「シーサイドファーム波路上株式会社」（代表取締役　佐藤信行　写真左）が7月5日に法人設立登記申請を行い，このほど手続きが完了しました。

（シーサイドファーム波路上のみなさん）

同社では，階上地域の復興に寄与するため，現在進められている杉の下工区のほ場整備地区において，露地ねぎと施設いちごの栽培や地域資源を活用したサービス事業を計画しており，来春からの営農開始に向け準備を進めています。被災者3名が取締役となり会社をスタートしましたが，今後，地域の協力者からの出資を加え，農地を借り受け農業を展開していくこととしています。また，営農に必要な機械施設は被災地域農業復興総合支援事業により気仙沼市が導入し，被災者に無償リースを行う予定となっています。

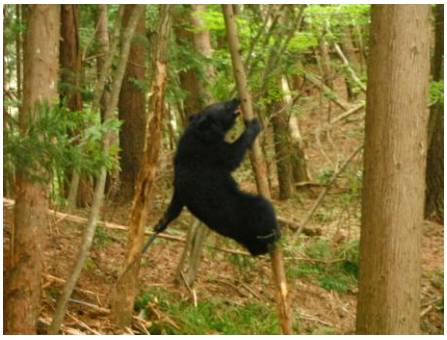
一方で，国の制度を活用して 30 代の入社希望者がすでに研修を行っており，営農開始に合わせて雇用するとともに，その後も，将来に渡り農地を守るため，地区内外を問わず，若手農業者を積極的に雇用し育成することを目標としています。

代表取締役の佐藤氏は，「震災から6年目にやっと営農再開のめどが立った。地域の方々をはじめ，農業を志す若者の力も借りて階上地区の農業を再生したい。震災の風化もあるが，引き続き全国の皆さんが応援してくださっているので，何とか応えていきたい。」と抱負を語っています。

当センターは「魅力ある気仙沼・南三陸農業再興」に向け，地域の皆さんを応援しています！

ツキノワグマに注意しましょう！
（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

今年は全国的にツキノワグマの目撃情報が多く寄せられており，秋田県では，死亡事故も発生しております。当所管内においても7月末現在，14 頭の目撃情報があり，例年の2～3倍となっております。今後，夏から秋にかけ，ツキノワグマの目撃情報が多く寄せられる時期になります。また，今年は餌となるブナ等の木の実が不作と予測されており，エサを求めて人里に出没することが予想されますので十分に注意してください。


（気仙沼市八瀬地区で目撃されたツキノワグマ）

もし，クマに遭遇した場合には，①そっと立ち去る，②騒がない，③子グマには近づかない等が基本です。クマは元々臆病な動物ですので，静かにその場を立ち去れば襲ってくることはないと言われておりますが，子連れのクマの場合は，母グマが子グマを守ろうとして襲ってくることがあります。子グマを見たら，静かに立ち去ることが肝心です。

また，クマと遭遇しないための予防策として，山に入る時には，①県 HP 等により出没情報を入手する，②熊鈴やラジオ等により人間の存在を知らせる，③朝夕（黎明薄暮）や濃霧時の入山を控える，④ゴミを放置せず持ち帰る，⑤クマの痕跡（糞等）に気を付けること等が重要となります。

これからの季節，キャンプ等で山に入る方も増えると思いますが，クマには十分な注意を払い，楽しい思い出をつくりましょう。

〇県自然保護課 HP「平成 28 年度クマ出没情報」のサイト：
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/h28kumajouhou.html#tukinowagumatoha

「三陸リアスの森保全対策事業」を実施します
（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

三陸地域は，岬と入り江が連続する美しいリアス海岸を形成し，水深の深い入り江が天然の良港となるとともに，複雑な岩礁が沿岸の海洋資源を育んでいます。

しかし，海岸崖地は大津波による浸食を受けて，至るところが崩壊し，波浪等によって土砂が流出して海に濁りが発生したり，マツクイムシ被害等の枯木が倒木となって流出し，漁場への影響が懸念されることから，流出土砂や枯木の発生源となる荒廃斜面対策の実施が求められていました。

（海岸崖地荒廃対策工事計画箇所）

治山事業は，森林の維持造成を通じて山地災害の防止など国土保全対策を行うものですが，これらの荒廃斜面の多くは，国庫補助事業の対象とならないため，対策工事の実施ができませんでした。そこで，県では今年度より，新たに県単治山事業「三陸リアスの森保全対策事業」を創設し，工事の実施が可能になりました。

（枯木伐採・除去等の森林整備計画箇所）

対策工事では，荒廃斜面を安定させ，植生を回復させる山腹工事を施工するとともに，必要に応じて波浪対策に有効な消波ブロックの設置を行います。また，倒木が流出しないよう枯木の伐採・除去等の森林整備を行う計画としています。景観や漁場に影響を与えている箇所を優先して事業を実施してまいります。

南三陸町卸売市場が竣工しました
（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

東日本大震災により南三陸町卸売市場が壊滅的な被害を受けたため，南三陸町は平成 23 年 11 月から仮設の市場で業務を行ってきました。

震災から5年が経ち，新たに南三陸町卸売市場は，荷捌き場を密閉化したほか，「海水氷・スラリーアイス」を採用するなど，水産物の高度な衛生管理・鮮度管理ができる市場として生まれ変わりました。

平成 28 年6月1日には，完成式典が挙行され，式典の終了後には，早速タコやカレイなどの初せりが行われました。本格的な市場での水揚げが再開し，再び町に賑わいが戻ってきました。

（竣工式の様子）

畜養ウニ専用飼料が国産化されました
（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

宮城県漁協歌津支所青年部では，磯焼け対策として捕獲したウニの畜養試験を行っていますが，国内で初めて製造されるウニ畜養専用の餌が使用されることになりました。

これまでは，復興支援の一環で提供されていたノルウェー産の飼料を使用してきましたが，平成 28 年6月 22 日にノルウェーの飼料製造企業（カストンインターナショナル社）と国内の企業（日本農産工業）の間で技術移管に係る契約調印が行われました。

今後は，餌が国内製造されることで，ウニの安定供給や養殖技術の確立につながるとともに，ウニ畜養を行うことで，磯焼け対策としても期待されるところです。

（調印式の様子）

企業と高等学校教諭との就職懇談会が開催されました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

5月 24 日，当事務所で「企業と高等学校教諭との就職懇談会」が開催されました。

この懇談会は，来春卒業予定の高校生の円滑な就職を図ることを目的に，気仙沼公共職業安定所（ハローワーク気仙沼）等により開催されたものです。

当日は，気仙沼市及び南三陸町内の高校7校と約 50 社の企業が参加し，各校のブースを各企業の人事担当者がまわり，会社概要の説明等を行いました。

（会場の様子）

田んぼの生き物観察会が開催されました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

７月７日，南三陸町入谷地区で，南三陸米地産地消推進協議会による入谷小学校の３年生を対象にした田んぼの生き物観察会が開催されました。

この観察会は，水田やその周辺で生息している生き物を観察することで，田んぼと生き物との関係を知り，地元で作られるお米の自然環境と環境保全の大切さを実感してもらうために開催されています。

参加した児童達は，思い思いに水田周辺の水路等を網ですくって，カエルやオタマジャクシ，ドジョウやヤゴなどを採集していました。当日は，羽化したばかりの赤とんぼが多く発見でき，児童達からは，「あれ？羽化したばかりの赤とんぼは赤くないんだね。」「どうして赤くないの？」といった質問が寄せられていました。講師の先生方は，児童達の質問に丁寧に答えたり，カエルの見分け方なども説明していました。

観察会終了後には，南三陸米を使用したおにぎりがふるまわれ，児童達はおにぎりをほおばりながら，口々に「美味しい！」と言っていました。児童達にとって，改めて，身近にある自然の大切さや面白さを感じる良い機会となったようです。

（隅々まで目を凝らし，田んぼの生き物を観察しています）

（あ！ヤゴだ！！）

南三陸町志津川地区観光交流拠点の起工式が開催されました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

南三陸町の仮設店舗「南三陸さんさん商店街」が，志津川地区のかさ上げした新市街地に整備される観光交流拠点に移転することになり，７月６日，新築工事の起工式が開催されました。

事業主は，町，商工会，地元企業などが出資して設立された「株式会社南三陸まちづくり未来」で，施設の設計は，新国立競技場の設計者として知られる建築家の隈研吾氏によるものです。

約 6,000 ㎡の敷地には，地元の南三陸杉を使用した6棟の木造平屋建てが整備され，28 の店舗が入ることになっています。

南三陸町の新たな賑わいの中核として，来年３月のオープンが期待されます。

（安全祈願祭・起工式の様子）

仙台・宮城観光キャンペーンを PR する NEXCO キャラバンを実施しました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

７月から９月にかけて，宮城県の観光プロモーション「仙台・宮城【伊達な旅】夏キャンペーン 2016」が開催されています。

当キャンペーンでは県全体としての観光 PR に加え，県内を4つに区分したエリアで様々なイベントを開催しています。当所が所属する三陸地域部会では，７月９日に NEXCO キャラバンを開催しました。

東日本高速道路株式会社様のご協力をいただき，東北自動車道国見 SA・菅生 PA において，夏キャンペーンのガイドブックや各市町のパンフレットの配布による観光 PR を行いました。あいにくの雨模様でしたが，多くのお客様に気仙沼市や南三陸町など，三陸エリアの PR をすることができました。

夏キャンペーンも残すところあと1ヶ月となりましたが，三陸地域部会では引き続き観光 PR に取り組んでいきます。

（ホヤぼーやも一緒に観光 PR）

第 65 回気仙沼みなとまつりが開催されました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

８月６日・７日の２日間にわたり，「第 65 回気仙沼みなとまつり」が開催され，天候に恵まれたことから昨年より約4千人多い約7万6千人の人手で賑わいました。

初日は田中前大通りでのオープニングセレモニーに始まり，当地方の方言で「一緒に参加しませんか？」という意味の，参加団体が工夫を凝らした踊りを披露する「はまらいんや踊り」が行われました。

２日目は，八日町地区を中心に市役所前などで「街頭パレード」が開催されました。夕方からは，港町臨港道路で，地元などの太鼓団体による「打ちばやし大競演」や，ねぶたを積んだ船で太鼓を演奏する「海上うんづら」が行われ，最後に約 2,400 発の「海上打ち上げ花火」花火が夏の夜空を彩りました。

（オープニングセレモニーの様子）

（気仙沼青年会議所による海上うんづら）